

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	材料力学 1	
科目基礎情報							
科目番号	1213C03			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械コース			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	PEL 材料力学（実教出版）						
担当教員	西野 精一						
到達目標							
1. 応力とひずみを理解し、応力－ひずみ線図を説明できる。 2. 引張・圧縮負荷を受けた部材の応力とひずみを計算できる。 3. 各種の荷重が作用するはりのせん断力図と曲げモーメントを作成できる。 4. 曲げモーメントによって生じる曲げ応力およびその分布を計算できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル（可）			
1. 応力とひずみを理解し、応力－ひずみ線図を説明できる。		種々の金属材料の応力ひずみ関係から材料の機械的特性を評価できる。	応力とひずみを理解し応力－ひずみ線図を説明できる。	応力、ひずみを説明できる。			
2. 引張・圧縮負荷を受けた部材の応力とひずみを計算できる。		断面形状が一樣でない部材の応力、ひずみ、伸びを計算できる。	引張り圧縮を受けた部材の応力、ひずみ、伸びを計算できる。	引張応力や垂直ひずみを計算できる。			
3. 各種の荷重が作用するはりのせん断力図と曲げモーメントを作成できる。		集中荷重と分布荷重同時等、複雑な荷重を受けるはりのせん断力図と曲げモーメント図を作成できる。	集中荷重、分布荷重を受ける基本的なはりのせん断力図と曲げモーメント図を作成できる。	単純荷重を受けるはりのせん断力図と曲げモーメントを作成できる。			
4. 曲げモーメントによって生じる曲げ応力およびその分布を計算できる。		非対称なはり断面の図心と断面二次モーメントを求め、曲げ応力を計算できる。	対称な形状の断面の二次モーメントを求め、曲げ応力を計算できる。	矩形断面や円形断面のはりの曲げ応力を計算できる。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	機械・構造物に外荷重が作用する場合、それらの部材又は全体が荷重に耐え得るか否かは、部材に生ずる力(応力)や変形(ひずみ)で決まる。本教科では応力とひずみの概念を理解し、荷重とこれらの関係を解析する手法並びに解析結果を機械設計に作用する考え方を身につけることを目標とする。この科目は企業で火力発電用ボイラの設計基準の研究を担当していた教員が、その経験を活かし、応力・ひずみ計算の手法等について講義形式で授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	前期中間、前期期末、後期中間、後期期末の各定期試験の間に小テストを実施する。【授業時間62時間】						
注意点	講義内容を理解し、機械設計に応用できるようになるには、正しく解析できる「技術」を習得する必要がある、宿題等を通じて、講義後の自主的演習を欠かさず実施してほしい。尚、大きな数値と小さな数値の混在する計算及び単位の換算など間違えないことも大切である。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	材料力学の概要および到達目標説明	力学の中での材料力学の位置づけが説明できる。			
		2週	力と応力	荷重の種類およびにる材料変形を説明でき。			
		3週	引張り圧縮とせん断	引張り応力とせん断応力を計算できる。			
		4週	引張りひずみとせん断ひずみ	引張りひずみとせん断ひずみを計算できる。			
		5週	小テスト				
		6週	応力ひずみ線図	応力ひずみ線図を説明できる。			
		7週	許容応力と安全率	許容応力と安全率を説明できる。			
		8週	中間テスト				
	2ndQ	9週	自重による引張り応力	自重による引張り応力の計算ができる。			
		10週	断面積が一樣でない部材の応力、伸びの計算	テーパー棒に引張り荷重が作用した場合の伸び計算			
		11週	断面積が一樣でない部材の応力、伸びの計算	テーパー棒に引張り荷重が作用した場合の伸び計算			
		12週	小テスト				
		13週	不静定問題の説明、熱応力の計算	静定問題と不静定問題の違いを説明できる。熱応力の計算ができる			
		14週	組み合わせ棒の計算	組み合わせ棒の応力計算ができる			
		15週	組み合わせ棒の計算	組み合わせ棒の伸び計算ができる。			
		16週	期末試験				
後期	3rdQ	1週	はりの種類。せん断力と曲げモーメントの符号	はりの支持及び荷重の種類を説明できる。せん断力と曲げモーメントの符号を説明できる。			
		2週	両端支持はりに集中荷重が作用する場合のせん断力図と曲げモーメント図	両端支持はりに集中荷重が作用する場合のせん断力図と曲げモーメント図を描くことができる。			
		3週	片持はりに集中荷重及び分布荷重が作用する場合のせん断力図と曲げモーメント図	片持はりに集中荷重及び分布荷重が作用する場合のせん断力図と曲げモーメント図を描くことができる。			
		4週	両端支持はりに分布荷重が作用する場合のせん断力図と曲げモーメント図	両端支持はりに分布荷重が作用する場合のせん断力図と曲げモーメント図を描くことができる。			
		5週	小テスト				
		6週	片持はりに集中荷重と分布荷重が同時に作用する場合	片持はりに集中荷重と分布荷重が同時に作用する場合のせん断力図と曲げモーメント図を描くことができる。			
		7週	両端支持はりに集中荷重と分布荷重が同時に作用する場合	両端支持はりに集中荷重と分布荷重が同時に作用する場合のせん断力図と曲げモーメント図を描くことができる。			

	4thQ	8週	中間試験	
		9週	曲げモーメントと曲げ応力の関係	曲げモーメントと曲げ応力の関係を説明できる。
		10週	図心の求め方	図心を計算できる。
		11週	断面二次モーメントの求め方。	断面二次モーメントを計算できる。
		12週	断面二次モーメントの加法定理と平行軸の定理	加法定理と平行軸の定理を使って断面二次モーメントを計算できる。
		13週	小テスト	
		14週	はりに作用する曲げ応力の計算	はりに作用する曲げ応力の計算ができる。
		15週	平等強さのはり	平等強さのはりを説明できる。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	機械系分野	力学	荷重が作用した時の材料の変形を説明できる。	4	前2
				応力とひずみを説明できる。	4	前3,前4
				フックの法則を理解し、弾性係数を説明できる。	4	前6
				許容応力と安全率を説明できる。	4	前7
				両端固定棒や組合せ棒などの不静定問題について、応力を計算できる。	4	前13,前14,前15
				線膨張係数の意味を理解し、熱応力を計算できる。	4	前13,前14,前15
				引張荷重や圧縮荷重が作用する棒の応力や変形を計算できる。	4	前15
				はりの定義や種類、はりに加わる荷重の種類を説明できる。	4	後1
				はりに作用する力のつりあい、せん断力および曲げモーメントを計算できる。	4	後2
				各種の荷重が作用するはりのせん断力線図と曲げモーメント線図を作成できる。	4	後2,後3,後4,後7
				曲げモーメントによって生じる曲げ応力およびその分布を計算できる。	4	後14,後15
				各種断面の図心、断面二次モーメントおよび断面係数を理解し、曲げの問題に適用できる。	4	後10,後11,後12

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	50	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0